

富山県総合計画審議会活力部会（第3回）の概要

- 1 日時 平成29年10月27日（金）15：00～17：00
- 2 場所 富山県民会館3階 304号室
- 3 出席委員 審議会委員8名、専門委員10名 計18名
- 4 主な意見

（1）グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保

＜第4次産業革命への対応等＞

- 第4次産業革命への対応に関して、いろいろな施策について、ビッグデータ、I o T、A Iなどを結びつけてやっていかなければならないが、こうしたものの導入のプロセスまたはロードマップを早く作って進めていくことが一番大事である。
- ただI o Tを導入するのではなく、中堅、中小企業がこれを導入してメリットを感じられる、いわゆる実証事例を積み重ねて、まず自助努力で生産性を高めることが必要。また、この生産性向上の県内定着、県内への呼び込みについて、産学官が一体となって継続して取組みを進めていくことが一番重要ではないか。
- 富山県はいろんな産業の会社があって非常にいいコンソーシアムができ上がる好条件がある。そこを利用して、富山県のロボット、I o Tを、日本で言えば、それだったら富山県だということまで持っていくような構想にしなければいけない。

＜人材育成、事業承継等＞

- 足元でも長期的に見ても、富山県のものづくりを支えるものづくり人材の確保・育成は非常に大きなポイントになってくる。
- 後継者人材バンクには大変期待をしているし、本腰を入れてやってもらいたい。
- 金融機関だけでは企業側に胸襟を開いてもらえるタイミングまで行かない。事業承継のセミナーなどを県の力を借りてやるのも成果に結びつくのではないか。
- 事業の存続と職人技の技術継承も、これからもっと深刻に受けとめていかなければならない1つの課題である。
- 今あるシニア専門人材バンクがそのままではいいわけではなく、もっと多様な目的やニーズに合った制度なり中身の充実もこれからはもっと求められてくるのではないか。

（2）生産性・付加価値の高い農林水産業の振興

＜担い手育成、生産性の向上、農林水産物のブランドカアアップ等＞

- 「富富富」を使って小学生を中心とした水田での田植え、稲刈り体験を行うというものがあると、農業に興味を持つ子どもが多くなり、将来、若い人材の中に農業に興味を持ち飛び込んでくる人も増えるのではないか。
- 野菜の大規模産地の育成に当たっては、栽培技術の伝授や販路拡大が不可欠ではないか。
- 農業でも労働人口の減少や高齢化がますます進んでいる。これからは、ドローンなどハイテク技術の活用も大事であると思うので、そちらの方にも力を入れて、若い人に魅力あふれる農業というイメージを植えつける方向に持っていければいい。
- 「富富富」がコシヒカリと肩を並べるためには、最初の販路拡大やPRが重要。それに力を入れていただいて、高品質の米をつくるように目指していかなければならない。

### (3) 環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤等の強化

#### <あいの風とやま鉄道の利便性の向上>

- あいの風とやま鉄道の利用促進を図るためのダイヤの研究のようなことをやればマイルール意識の醸成にもつながっていくのではないか。

### (4) 観光振興と魅力あるまちづくり

#### <選ばれ続ける観光地づくり、国際観光の推進、観光人材の育成等>

- 以前は冬場が弱いということがあったが、最近、海外も含めてスキーに来られるお客さんが増えており、「富山は冬は飛行機を含めて大丈夫か」と聞かれることがあるが、富山は除雪体制が充実していることをもっと国内、海外にも宣伝していただきたい。
- 世界的に、観光客が多過ぎることによる弊害（オーバーツーリズム）が少しずつ出てきている。一時の過剰な観光客への対策というものを今から少し考えていくことも大切なのではないか。
- 内川（新湊）において、ちょっと休んでいこうかなというお店がないので、県や市で仕掛けていただければもっと観光客の方が来てくれるのではないか。
- 長野、高山、金沢は、日本の地方都市で今海外の人にもものすごく人気がある。富山はその真ん中にあるので、富山空港からいかに近いかということ連携して宣伝できるように取り組んでいただきたい。
- インバウンドが最近非常に増えており、中国などは特に個人客が大幅に増えてきているので、個人客の誘致の対応や現地での営業、宣伝等をもっとしっかりやってもらいたい。
- ガイドに限らず富山県内の観光産業に従事される方に対するインバウンド教育をさらに推し進めていくことが必要。
- 沖縄県で小学校の段階から観光の重要性について学んでいるように、「観光教育」を早い段階から行うことも有効ではないか。

### (5) その他

- 「未来調和型の県づくり」戦略に関して、公共インフラの災害対策や更新投資などで莫大な公費負担が出てくるが、公民連携の手法も取り入れながら整備を充実していくことも必要ではないか。
- 夢構想の中に追加すべき視点を考えるならば、県民に提案する夢構想というよりは、県民が一緒になってつくっていく、県民とともにある夢構想という部分をもっと感じられるような内容のほうが具体的でいいのではないか。
- 夢構想の「食と農の王国」と、7番目の「豊かな海と水」のところで、ここに1つ大事なキーワードとして、富山というのはやっぱり水資源が重要なので、いわゆる森、里、川、海の「循環」という言葉が必要ではないか。
- 地方大学で空いているキャンパスを寮にしたりして、もう一度社会人大学として復活させている例がある。お金も時間もある元気な人たちがもう一度学び直すということで考えると、富山というのはそもそも学ぶということに関して、ノーベル賞とか薬都とかブランドがあるので、そういうものを活かして、「富山で死ぬまで学びましょう」みたいなことを提案できればよい。
- （計画を）一回決めたからといっても、事業環境など世の中の環境が変われば、それに合わせて柔軟性を持つことが大事。一回決めると硬直的になるケースというのが世の中ではよくあるが、絶えず柔軟性を持って変えていくという姿勢が必要。
- 計画をどうやって実現していくかという意味において、「県がやればいい」、「県にやってほしい」ということだけになっていないか。県はディレクターであって、タレントは県民や県の企業なのであり、そういうところをしっかりとっていただきたい。
- 我々県民一人ひとりがどうこれに参画して、そして一緒に盛り上げていくか、このすばらしいプランを実行していくかということを考えると、これをやるのにいいアイデアを出したり汗をかいた人をぜひ表彰していただきたい。民間の意見に対して大いに表彰なりして、そういうものを酌み上げる仕組みづくりをお願いしたい。

## 富山県総合計画審議会未来部会（第3回）の概要

- 1 日時 平成29年10月17日（火）13:30～15:30
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員10名、専門委員6名 計16名
- 4 主な意見

### （1）結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり ―県民希望出生率1.9へ― ＜仕事と子育てを両立できる職場環境づくり＞

- 大手企業に対し外形的な取組みを促せば物事が自動的に解決するというものでは決していない。「企業への意識改革」は記載内容がやや上から目線であり、表現の工夫を検討していただきたい。
- 社外との交流の多い経営者と異なり、長年同じ場所で働いている労働者の意識改革は難しい。外に飛び出して研修を受けるなど、意識改革のチャンスを提供していくとよい。
- 「企業への意識啓発」との記載については、公務員などが対象に入ることも考えられるので、「事業所」等とすることも考えられるのではないかと。

### ＜子どもの健やかな成長支援＞

- 今後は里親制度のPRに理解を示すように県民への周知をしていただきたい。

### ＜子育て家庭の経済的負担の軽減＞

- 子育て応援券の充実との記載があるが、第1子と第2子の育児が楽で、楽しく、また、県に守られているという思いがあってこそ第3子であり、全子に3万円を考えていただきたい。

### （2）真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上

#### ＜教員等の多忙化解消＞

- 保育士、教員、養護教諭の多忙化を切実に感じている。法定の人数だけではなく、特別枠で対応できるとよい。

#### ＜魅力ある質の高い教育の推進＞

- 家庭の教育も大事だが、教育はやはり県と市町村が一番重要だと思う。都会では（学校教育が物足りないという理由から、）家庭での教育を充実しなければならないと考えている人が非常に多くおり、富山県は住んでいるだけで、県や市町村がしっかりと教育してくれるのだという未来図が描ければよいと思う。

#### ＜家庭・地域の教育力の向上＞

- 家族そろってあいさつをする、ご飯を食べる、といったことが重要。いじめの問題やいのちの尊さなどを話題にあげるなど、家庭教育での学びを推進してはどうか。

#### ＜生涯にわたる多様な学びの推進＞

- 主な施策に「人材を活用し」という言葉があるが、地域の担い手を育てるということで、「人材の育成」という言葉を使ってはどうか。
- 国では、生涯学習において地域に山積している課題に関する課題解決型講座にも取り組むべきとされており、そういった視点を組み入れてはどうか。

### (3) 文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進

#### <県民が芸術文化と出会い、親しむ環境づくり>

- 都会に比べると美しい音楽を聴く機会が少ないように思う。美術館で子どもたちに音楽、演奏を聞かせるような企画があればよい。

#### <全国や世界の檜舞台で活躍する選手の育成>

- 指標には本県出身選手とあるが、他県で生まれたけれども富山県の選手として国体に出たり、現在富山県の子どもたちに指導したりしている方々についても目標指標の対象にしてほしい。「本県選手」や「本県アスリート」などとし、大きく捉えることはできないか。

#### <多様なボランティア・NPO活動の推進>

- 概念的にはボランティアはNPOに含まれる。現状と課題に「ボランティア」や「NPO」、また「NPO法人」という表現が混在しているため、人によって捉え違いが起こらないよう配慮が必要。

#### <若者の自立促進と活躍の場の拡大>

- 18歳は世界的に見れば立派に意思決定ができる年齢。若者が悲観するような閉塞感に包まれた社会の雰囲気は変えていかなければならず、もっと若者に活躍の場を与えていくという視点が必要なのではないか。

#### <男女共同参画社会づくり>

- 研修やイクボス宣言、モデル企業の指定などにどの企業も最初は進んで取り組むが、2、3年後にこの目的はなんだっただろうと感ずることがある。ずっと当初の目的を持ちながら継続することで、作った施策が役立っていくのではないか。

### (4) ふるさとの魅力を活かした地域づくり

#### <地域の個性を活かした景観づくり>

- 屋外広告等は、例えば菓の富山らしさを出すようなものであってほしい。見る人が気持ち良い看板であってほしい。

### (5) その他

- 災害時に子どもを抱えた母親に対しての避難手段の確保や避難所においてオムツがない場合の対応などについても考えていく必要がある。
- 重点戦略については、新幹線の沿線都市のどういう都市とどんな連携をしたらこういう相乗効果が生まれていくのかなど、具体的な記載は難しくとも、戦略の観点については触れてほしい。

## 富山県総合計画審議会安心部会（第3回）の概要

- 1 日時 平成29年10月19日（木）15:00～17:00
- 2 場所 富山県民会館8階バンケットホール
- 3 出席委員 審議会委員10名、専門委員10名 計20名
- 4 主な意見

### （1）いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一

#### <総合的ながん対策の推進、医療提供体制の充実>

- がん患者が今後も増えていくという統計資料もあるので、がん患者の社会参加という視点で早期の緩和ケアに取り組むような施策を講じてほしい。
- 薬剤師や栄養管理士など、医療人材の育成を進める施策が大切である。

#### <健康寿命日本一を目指す総合対策の推進>

- 本県の健康寿命は男性が全国31位、女性が14位であるが、県民が最後の10年間を健康に生きるために、今取り組まないといけないことを自覚していないからではないか。そのため、県民へのPRが大事であり、例えば「富山県民運動の日」を設け、ウォーキングイベント等を開催し、併せて食育講義や検診などを行う取組みが考えられないか。

### （2）住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進

#### <地域包括ケアシステム・共生社会の形成等>

- 共生型デイサービスは子供からお年寄りまでいろんな相談にも対応できるので、500人～1,000人位規模の地域の拠点にしていくことが大事でないか。
- 富山市の地域包括支援センターでは、閉じこもりの老人の外出といった取組みを行う人員の確保ができていない状況にあるので、時間がある元気な高齢者でボランティア的に参画してもらえらる人を増やす仕組みを作らないといけない。
- 相談援助や相談支援を進めていくには、その分野のプロフェッショナルが必要。プロが地域住民の方と一緒に地域の中に入り、住民同士の助け合いをうまく引き出すということもできるので、プロを育成していくということをもっと強調できないか。

#### <介護・福祉人材の確保>

- 介護の人材確保の主体として、大学や行政機関、あるいは職能団体、介護福祉士会や保育士会といったようなものの役割も期待されてもいいのではないか。
- 今後、介護分野の外国人学生・技能実習生が増え、アパート・アルバイトという生活支援の問題も含めて大きな問題になると言われているので、事業者や養成校、行政などの情報交換や連絡協議の場、勉強の場を設ける必要があるのではないか。

#### <高齢者の介護予防や認知症対策等>

- 認知症の方に適切に対応すれば、地域や在宅でも十分に見守ることができるが、理解が不十分であるために、家族が施設に入所させたり、虐待が生じるのではないか。認知症に対する理解の促進、特に核家族化が進展していることから高齢者の方と交流する場の推進といった点を盛り込めないか。

#### <障害者への支援等>

- 障害者と健常者がともに生きる共生社会とは、お互いに理解し合って助け合うことができるという地域をつくることでないか。そのため、障害者の方を含めた防災訓練の開催など、日常の中で健常者と障害者とが集まって、お互いに分かち合えるような活動を続けていくことが必要でないか。

### (3) 環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県」づくり

#### <環境の保全>

- 野生鳥獣との共生や絶滅危惧種の保全等に力を入れ、これ以上自然界の宝が消えてしまわないような施策を進めてほしい。また、野生鳥獣対策を狩猟者や管理者だけに委ねるだけでなく、県民みんなが知恵を出し合い、できることから協力して対処することが大事であり、その環境づくりに向け県が主体的に取り組んでほしい。

### (4) 災害に強く、「日本一安全・安心な県」づくり

#### <防災・危機管理体制の充実、災害対策等>

- いざ災害が起こったときに次になすべきか様々な者と相談できる体制が必要であり、ふだんから顔の見える関係を構築しておくことが必要である。また、いろんな災害のことを想定した災害コーディネーターの育成が重要である。
- 住宅用火災警報器の設置や交換がまだ進んでいない状況にあるので、設置等に向けた対策を考えることが必要ではないか。
- 災害時の緊急道路の確保という点からも、市町村道の整備や長寿命化に向けて県が指導的な立場として関わってもらいたい。

#### <地域交通>

- 地域内交通の維持が重要であるので、より維持費が低いデマンド型交通の充実に、AIを活用した需要予測も取り入れながら、取り組めないか

### (5) その他

- 今後は、重い障害者の方がどんどん働いてそれなりの給料をもらったり、20代・30代のがんの人たちも含めて、誰もが働けるような社会の実現に力を入れてほしい。
- 重点戦略①の「富山県の強みである先端ものづくり分野、医薬品産業への参入、促進・支援」と、重点戦略④の「循環型・低炭素自然共生社会」は連携してくると思われるので、その連携の部分を強く出していくと、本県の特徴が見えてくるのではないか。
- 「産業観光」は、ものづくり県の特色として、若い人たちに夢を与えたり、世界の人たちにアピールできる重要な取組みであるので、重点戦略においてももう少し大きく取り扱ってもよいのではないか。
- 中小企業、保育や福祉関係も人手不足と言われている。ちょうど高校再編成の話もあるが、高等学校における産業教育、専門学科教育の充実が課題となるのではないか。
- 人材を育成していくことが何よりも大切であり、それを担う機関の整備や、一人ひとりが力をつけることを後押しするための目標が必要となる。
- 自分の地域のいいところを計画の中にもとりいれて、富山のよさを県民の皆様がわかるようにしたらよいのではないか。
- 県民の方が、総合計画を分かりやすく見てもらうために、キーワード的な用語を索引できるような工夫があればよいのではないか。